

日帰りバス旅行

伊東温泉食事・入浴 みかん狩り、ワイナリー、沼津鮮魚

集合・出発

11月20日(日) 参加費 8千円

- ① 7時20分 JR新橋駅SLわき
- ② 7時40分 お台場海浜公園駅前(都営バス停)

10分前には集合して下さい

楽しく交流しましょう

*申し込みは右下の3名まで

東日本大震災救援募金のお願い ボランティア募集 支援物資も

募金、物資提供など
ご連絡いただければ
お伺いします。

引き続き不足している物資
米、野菜、果物
石油ストーブ、コタツ、
セーター、コートなど

強まる冬物の要望

寒い冬が間近

港地区委員会 Tel 3455-0051

FAX 3455-0054
メール jcp_minato@ybb.ne.jp

港区議団 Tel 3578-2945

FAX 3578-2947
メール mail@jcp-minatokugidan.gr.jp

いのくま正一ブログ ←検索



電動付きの自転車を三浦かずとし
本部長に手渡す代表团

いのくま正一前区議 42日間 救援活動

9月23日から26日まで、第4次の石巻・救援ボランティアに行きました。区民から提供された電動機付きの自転車を現地救援センターに引き渡しました。物資のお届けや草取りの作業を行ってきました。握手しているのは、三浦かずとしセンター本部長と、いのくま正一前区議。寒い冬を迎え、今後も引き続き支援が必要です。

いのくま前区議は、この間合計で42日間、ボランティア活動を展開しています。(2面に詳報)

暮らしに役立つ情報

*砂糖が固まってガビガビ

砂糖の固まりをおろし金で削るといいよ

*フローリングの掃除には何使う

米のとぎ汁は捨てずに取っておき、ふき掃除に使う。米ぬかに含まれている成分が床のツヤ出しに効果あり

*古米をおいしく炊くコツって?

古米の2割くらいの量のモチ米を混ぜて炊くといい
サラダ油を少量加えて炊いても大丈夫

日本共産党

あたご・台場・
赤坂・六本木

後援会 ニュース

2011年 秋号

斎藤正一	浅野昭二	杉浦竈雄
三四七〇一六九七	〇八〇一四四七六一二七九五	〇九〇一五四〇一一六三三九

<部内資料>

日本共産党港地区委員会は、9月23日から26日まで石巻市「救援センター」を拠点にいのくま正一前区議を先頭に7名が活動しました。

日本共産党第4次救援ボランティア 石巻活動報告 2011.9.23～26



仮設住宅での無料大バザー

仮設住宅に 暖房なし

初日はトモロー
ビジネスタウン

コンに発注しました。断熱材も使わず、ストーブなどの暖房もありません。本格的な冬を前にして、特別の支援体制が必要です。

という仮設住宅で大バザーです。500人が足を運んでくれました。仮設住宅は、「夏は暑々寒い」のが特徴です。宮城県はほとんど仮設建設を大手ゼネ

した。10台の自転車をバザーに出したところ、80人以上から申し込みがあり、現地で抽選しました。当たった方は飛び上がって喜んでいました。

ゴルフ練習所の草取り 営業再開へ明るい兆し

ボランティアの2日目は東松島のゴルフ練習場の草取りです。社長さんが話し

てくれたのは、今年3月5日に4000万円以上かけて機械類を新装したそうです。その6日後に震災で、一階部分は津波をかぶり、機械も壊滅です。ローンだけが残り残りました。草取りが終われば、再開の方向に行けると、顔にも明るさがにじみ出ていました。

第4次ボランティアに、20数万円の募金と、お米100キロ以上、冬服や石けんなどの物資も軽トラツクに乗せきれないほど大量に提供を受けました。ありがとうございます。



草取り作業。施設の時計は2時46分で止まったまま



この日のバザーでも「買い物に行けない」、「セーターやコートはありますか」など要望は冬型になっていました。おはぎと、煮物の炊き出しもあり、被災者から暖まっていたありがたいの感謝が寄せられま



ほぼ同じ場所です。上が7月ごろ。下は片付け後、9月26日

私は、宮城県石巻市にこの間4回、合計42日間救援ボランティアに行きました。ボランティアにくる方を受け入れる仕事にも携わってきました。

石巻を中心に、東松島、女川、南三陸地域での活動でした。この地域の大震災による死者・不明者数は10643人で、宮城県全体の75%を占めています。石巻市の瓦礫量は614万3千トンにも及び、100年分の瓦礫量です。被災から七ヶ月たってもこの瓦礫をどこに処理するかが決まらない状況です。

救援ボランティアの仕事は、

- ①床下や側溝の泥だし ②救援物資の届けと炊き出し ③要望聞き取り

床下の泥ダシをボランティア隊が一気に片付けた後の、80歳代の女性は顔色もぐっくと明るくなり、「私らではドロ出しはできないと、途方に暮れていたが、ドロが片付いて、これでこの家で暮らせる。この家で死ぬことができる」と話しました。

42日 ボランティアの感想 いのくま正一

野菜やお米、日用品などの「物資のお届け隊」も大好評です。仮設住宅では、近くに

6月から8月は夏物衣料が望まれました。これから冬にむかっては、冬物の服、コタツなども強く要望されています。

無いですか「今度はいつきてくれるのですか」など、行くたびに喜ばれ、さらに期待も高くなります。

この間、赤旗読者、後援会員、支持者のみなさんから山の支援物資をいただきました。募金も総額で一八〇万円も寄せられました。被災現地に直接お届けするとともに、いただいた募金で、お米や野菜、日用品などを大量に購入し被災者にお届けすることができました。

復旧、復興はまだまだこれから長期の取り組みにもなります。被災地と被災者が望む復興とするためにも、引き続き救援ボランティア活動を強めたいと思います。